

広報TSB

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第7号

平成27年度 前期

地域のセンター としてのTSB

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学長 山田 宗慶



皆さんこんにちは。この四月に秋葉征夫先生の後任として東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部の学長に就任いたしました山田宗慶です。伝統ある大学・短大の学長を拝命して責任の重さを痛感しております。どうかよろしくお願い申し上げます。

この広報が皆さんに届くのは八月頃と思いますが、七月初めまでの本学の状況をご紹介します。先ず、四月四日に恒例の入学式が厳粛に行われ、大学九十一名、短大一〇五名、編入学三名、合計一九九名の新入生を迎えました。新入生は直後に開催されたオリエンテーションキャンプで、教職員や先輩学生達から学習方法をはじめ本学での様々なノウハウを学んだようです。本学としては新入生が充実したキャンパスライフを送れるよう支援していききたいと思います。以後、全学生対象に恒例の防災避難訓練、体育祭、オープンキャンパスなどが予定通り盛大に行われており、次ページ以降にも紹介記事が掲載されています。

このほか、トピックスとして、平成二十五年度に新設された短大食物栄養学専攻がこの三月に最初の卒業生を社会に羽ばたかせました。栄養士をはじめとして就職率は一〇〇%でした。またこの三月実施の管理栄養士の国家試験の結果が最近発表され本学は合格率八十九%と過去最高を記録しました。いずれも学生達と指導教員の努力が実ったものですが、保護者の皆様のご理解・ご支援あったればこそと厚く感謝申し上げます。さらに五月末に合衆国トリニティ大学の教員と学

生計七名の訪問を受けました。平成二十三年の東日本大震災を契機に本学の教員との交流が始まり今回の来学となったものです。わが国の自然災害とその歴史の調査・研究が目的で、浅間山と気仙沼を視察し、本学を訪問したものです。私からは、四年前のTOMODACHI作戦への感謝とともに、一八五三年のペリー提督の浦賀上陸をきっかけに日本人の教育熱が目覚め、二九〇〇年の本学園の創立につながったという話をしました。それ以外にも合衆国の伝統大学の教育・研究の幅広さと厚みに感心させられました。

本学の目的と使命は、わが国の生活文化の向上を図るため、学術の中心として、幅広い教養を授けるとともに、深く生活と文化に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、社会に貢献する人間性豊かな人材を育成することとあります。そのために、教養教育と専門教育の双方に力を入れ、教育の形態としては授業、実験、実習、演習を適度にバランスさせる方法です。我が国ではややもすると実験、実習、演習がおろそかにされがちですが、本学では以前より複数教員の指導による実験、実習、演習に力を入れてきました。手塩にかける方法によつてはじめて幅広い教養に裏打ちされた高い専門性を身につけさせられるとの考えからです。実際、OECDが高く評価する高等教育もそのようなものです。このような高度な高等教育を実践するために教員は自身の専門領域で研鑽を積み自らの専門性を高めております。

現在、大学・短大での教育に対する社会の期待は極めて高いものがあります。教育の中心であることは勿論のこと、地域の中心であることを期待されています。地域に多数の幼稚園教諭、保育士、家庭科教員、美術科教員、管理栄養士、栄養士などを送り出している本学は、地域の中心としての資格は十分です。現在本学では、地域の暮らしをデザインする力を育む大学を標榜して様々な地域連携を行っており、ワクワクぶろじえくとはその代表の一つです。どうかご期待ください。

最後になりましたが、皆様の益々のご健勝をお祈りしますとともに本学への一層のご理解・ご支援をお願い申し上げます。

大学家政学科

短信



はじめにスタッフの変更についてお知らせします。家政学科で二十一年間にわたり教育・研究・学科運営に尽力された大庭清先生が、四月に学園の事務局長に就任され、名誉教授になられました。大庭先生は家政学科長、家政学部長、評議員などを歴任され、家政学科や大学、短期大学の発展に多大な貢献をされました。また、家政学科の新しいスタッフとして、応用栄養学分野の授業を担当される川俣幸一先生をお迎えしました。川俣先生は学友会にスポーツ栄養研究サークルを設立されるなど、着任当初から意欲的に教育・研究活動を進められています。

さて、四月は三日に入學式が挙行され、ガイダンスやウェルカムパーティー、オリエンテーションキャンプが続いた後、十日に授業が開始されました。四月は年間の履修計画を立てる時期であり、取得する免許や資格、これまでに修得した単位数などに応じて担任がアドバイスをします。

五月は大型連休の後、集中して授業や実習に臨む時期になります。八日に平成二十六年管理栄養士国家試験の合格発表があり、本学健康栄養学専攻は合格率八十九パーセントという好成績をおさめることができました。

六月は二十日に今年度二回目のオープンキャンパスが開催され、服飾文化専攻、健康栄養学専攻それぞれの専門性を反映した模擬授業と体験講座が行われました(写真)。在学生もスタッフとしてオープンキャンパ



スをサポートし、本学の特徴の一つである一体感の強さが高校生たちに伝わったことと思います。

十月の大学祭ファッションショーに向けた準備がすでに始まっています。今年も服飾文化専攻の二年生がプロデューサーを務め、全体をまとめています。夏休みからリハールが本格的に行われますが、その成果をぜひご覧になっていただければと存じます。

大学生生活美術学科

短信



生活美術学科は今春、平成二十二年度に導入したコース制の最初の卒業生を送り出すとともに、編入生二名を含む三十九名の新入生を迎え入れました。各コースは、大学での美術の学びと実社会との接続を強く意識し、社会の各分野で貢献することのできる人材の育成を目的に設置されました。教育内容は常に時代に即応して見直しが必要となりますが、現在このコース制を土台にしてさらに魅力ある美術教育の実践を志向し、将来に向けて新たな構想を検討している最中です。

さて、今年度上半期を振り返りますと、四月に二年次対象のオリエンテーションキャンプ(写真上)が遠刈田温泉で、同じく二年次対象の研修旅行(美術特別講義として実施)が五月に東京で、夫々無事に実施されました。六月には体育祭が晴天の下開催され、普段の授業とは味違った学生達の一面を垣間見ることができました。学生の作品発表に関しては、例年と同じく個展、グループ展、各種のコンクールへの出品が相次ぎました。中でも六月下旬にギャラリーSARPで開催された「とっかえひっかえすり替え展」(写真下)では、森教授と他の教員や卒業生そして在学生とのコラボレーションによる作品が所狭しと展示され、本学が標榜する「暮らしワクワク設計

チーム」ならではの展示会となりました。また、現在四年

次の相澤郁恵さんの本学を舞台としたマンガ、「モディリアーニ」にお願い」のビッグコミック増刊号への連載も、七月で四回目となりました。

生活美術学科は昭和四十年の創設以来、お蔭様で今年で五十周年を迎えることとなります。十二月二十日

から二十五日にはせんだいメディアテークを会場とした在学生、卒業生、教員による大規模な作品展示を主としたイベントを予定していますので、是非ご高覧いただければ幸いです。この場を借りてご案内させていただきました。



短大生活文化学科

短信



おかげをもちまして、平成二十七年三月十五日に食物栄養学専攻から初めての卒業生三十七名を送り出すことができました。三十名が栄養士の免許を取得し、就職率一〇〇%を達成しました。子ども生活専攻は七年間連続して就職率一〇〇%を達成しています(うち五名は公務員)。また、食物栄養学専攻の卒業生のうち二名が大学家政学科健康栄養学専攻三年次に編入し、管理栄養士を目指すことになりました。栄養士の実務経験を積んでからの受験を希望する卒業生もいて、受験勉強をサポートする体制を整えつつあります。

平成二十七年四月、食物栄養学専攻に四十一名、子ども生活専攻に六十四名、計一〇五名が入学し、新たな年度が始まりました。

今年度前期の主な行事を紹介いたします。

学科の行事

- 四月七、八日
一年生オリエンテーション
キャンプ、二年生研修旅行
(花巻方面)
- 六月十三日
体育祭



食物栄養学専攻

二年生の実習

- 六月～十月 校外実習
小学校、保育所、自衛隊、特別養護老人ホームなどで給食管理実習を行います。
- 八月下旬～九月中旬(予定) フードエンタテイメント演習
株式会社江陽ランドホテル、菓匠三全、セントジエームズクラブ迎賓館(結婚式場)

栄養士としての実力アップ、就職試験・編入試験対策に有効な栄養士実力認定試験(十二月)の受験を勧め、受験対策講座を行っています。

一年生の実習

- 八月二十四～二十八日 施設見学(短大附属ますみ保育園)
- 九月十五、十七日 施設見学(仙台医療センター、セン

トラルキッチン)

子ども生活専攻

- 二年生の実習
- 五月十四日 マナー講座
浅野純子先生を招き、実習・就職活動に向けて講演していただきました。

“ワクワク” オープン キャンパス 2015



6月20日(土) 快晴の下、今年度第1回目を開催。全体ガイダンス、各学科専攻の模擬授業・体験講座。ランチは、健康栄養学専攻と食物栄養学専攻共同製作による「特製ビビン麺」と「牛乳寒天フルーツソースがけ」。午後からは体育館において「ワクワクコンテンツ」において、和やかな雰囲気でした。

7月18日(土) 少し雨がバラつく時間帯もありましたが、今年度2回目を開催。今回は、特別に卒業生にスポットを当て、彼らを交えてのキャンパスカフェ。各学科専攻、特色を生かしたカフェで、参加した高校生たちはそれぞれ未来の自分を想像しながら、ティータイムを楽しみました。

参加者の声

- 他の学科の人達との交流も多くて、良いと思った。
- 大学全体の雰囲気が明るくて良かったです。
- 実験が勉強になった。楽しかった。
- 色々なことを知ることができ、これからの進路にすぐ役立ちそうです。ありがとうございました。
- ここで学べたら楽しいだろうなあ…。
- 学校の雰囲気がよくて、また来たいと思いました。
- 優しく教えていただけて嬉しかったです。ありがとうございました。
- 先輩たちとたくさんいろんな話ができてとっても楽しかったです。ありがとうございました☆
- とても楽しかったので、また来たいと思います。
- 先輩たちがみんな優しかったです。

今後のオープンキャンパス

第3回

8月9日(日)

第4回

9月19日(土)

第5回

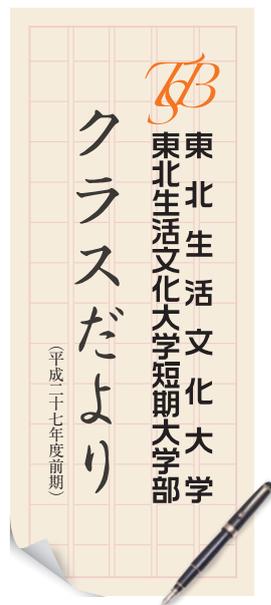
10月24日(土)

大学祭と同時開催

1、2年生のための
オープンキャンパス

3月26日(土)

- 八月中旬～ 保育所実習・施設実習
- 一年生の実習
- 六月二十六～二十九日 幼稚園・保育所見学実習(短大附属ますみ幼稚園・保育園)、施設見学実習(丘の家子どもホーム)
- 九月～十八日 幼稚園基礎実習Ⅰ(短大附属ますみ幼稚園)



大学服飾文化専攻 1年

四月の入学式直後の二泊二日のオリエンテーションキャンプなどなど、ハードスケジュールではあったものの、女子のみ十三名のメンバーはそれぞれの目標に向かって大学生活をあわただしくスタートさせました。資格取得に関しては、教職五名・学芸員四名・衣料管理士十二名が登録し、頑張り始めたところです。高校までとは様々な面で異なる環境に放り込まれた恰好ですが、概してみなよくやっついていると見受けられます。ただ、まだまだ始まったばかり、これから四年間で様々な出来事が起こったり、個々人のドラマが展開されることと思います。青春の多感な時期を担任として一緒に過ごすことになった以上、この縁を大切に担任としての自分を個々人に理解してもらいながら、個々人の縁の下の力持ちになりたいと考えております。尚、六月の後援会総会には、御多用中五名の保護者様に御出席していただき、有意義な懇談の時間を持つことができました。この場をおかりして深くお礼申し上げます。

大学服飾文化専攻 2年

服飾文化専攻二年生たちは、おかげさまで、元気に充実した学生生活を送っています。二月に行われた学外ファッションショーにはスタッフやデザイナー・モデルとしてクラスの殆どの学生が参加しました。十月の大学祭・ファッションショーの準備も始まっているようです。このような課外活動からも様々なことを学び、成長している様子を度々拝見します。入学時の思い・夢を忘れずに、今後も多くのことを学んでいただきたいものです。そして、全員が三年次に進級できるよう、引き続き指導いたします。

また、九月には研修旅行が実施されます。今後の学習や職業選択に活かせる充実した研修となるよう願っています。

大学服飾文化専攻 3年

三年生に進級してから三ヶ月が経ちました。授業ではブランドマネジメント演習で山形の染色加工工業での研修があったり、課題研究が後期から始まったり、キャリア開発で就活の準備をしたりと、卒業を見据えたより専門的な内容の学習が増えています。先日日の体育祭では女子たちが元気なパフォーマンスを見せてくれました。ファッションショーの練習や準備も始まっており、その成果が楽しみです。また教員全員で「衣料管理士」の資格取得を支援しますので、今後もしご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。十三名ひとりひとりでできるだけ目を配りながら支えていきたいと考えています。

大学服飾文化専攻 4年

大学四年生になり早いもので三ヶ月が経過しようとしております。現在、服飾文化専攻の最終学年の学生達は課題研究や教育実習、そして就職活動などを通して、充実した日々を過ごしております。中でも特に、就職活動はそろそろ佳境に入り学生達の悲鳴が大きくなって参りました。学業も就職活動も取り掛かりと決断力、そして行動の早さとその後の対応が重要になります。逸早く実行した学生達の中から内定を勝ち取った学生も出てきておりますし、現在も自身の可能性を信じて活動中の学生もおります。担任といたしましては、これからも学生達に対して心身ともに健やかに過せるように、そして希望する職種の内定を勝ち取るまでサポートしていきたいと考えております。

大学健康栄養学専攻 1年

この四月、男子十一名と女子二十九名の計四十名が、おそらく不安と期待を抱いて入学して来たものと思います。あれから早や二ヶ月が経ちましたが、今現在のクラスの様子を一言一言で申し上げますと、「皆仲が良く、団結力が強いクラス」です。その証拠に、過日(六月

十三日)開催された「体育祭」のガチリレー(男女混合リレー)決勝ではダントツの一位に、また他の種目(バレー、バスケットボールなど)の勝利得点を合計した総合成績でも「総合優勝」することができました。皆の澁刺とした姿を見るにつけ、今後共に「絆強いクラス」であり続けられるよう支援していきたいと考えております。

大学健康栄養学専攻 2年

二年生になり、授業科目も専門分野の講義、実験、実習が多くなり、学習内容も多岐に渡っております。五月中旬から実施した担任との個人面談では、毎日勉強する習慣を身につけること、アルバイトで帰りが遅くなる際は事故やトラブル等に注意するよう、指導いたしました。六月の体育祭では、女子はバスケットボールで、クラスはガチリレーで共に二位になりました。また、実行委員として活躍する者もあり、頼もしく感じました。

今後は七月下旬からの前期試験、後期の家政特別講義の学外研修などがあります。健康面に気を付けて、学生生活を送ってほしいと願っています。

大学健康栄養学専攻 3年

健康栄養学専攻三年生は、四月に二名の編入学生を迎えました。また六月には、十三名が校外実習に臨みます。そのため、五月から実習準備を始めているようでした。一週間という短い実習ですが、現場では何を求められているのかを感じ取ってもらいたいものです。さらに、学事や様々なボランティア活動で中心的存在になります。授業の課題の他に負担も増えると思いますが、様々な経験を重ねることを期待しています。

大学健康栄養学専攻 4年

六月六日の後援会総会、懇談会・個別面談にご参加いただき御礼申し上げます。いよいよ卒業年度を迎えました。クラスの様子として、臨地実習(保健所、保健センターや病院)、家庭科の教育実習、そして就職活動と学外にいることが多くなりました。学生と実習や就職の話をする時、緊張しながらも笑顔で「頑張ってくる」と研

研究室後にする姿をみて四年間の成長を感じています。一方、模擬試験の結果を見ると国家試験に向けては、まだまだ努力が足りないようです。強化クラスが始まり、授業の他に助手さんに対して勉強を教わっています。ご家庭でもどんな問題に取り組んでいるのか確認していただけると幸いです。

大学生生活美術学科 1年

今年も、「絵を描いたりするのが小さい頃から好き」で「色や形に興味があり」「将来そういつたことを活かした仕事がしてみたい」という若者が入学してまいりました。同じ目標を持つ仲間と一緒に多くの美術ジャンルが学べることで、充実した大学生生活を彼らは送っています。

五月の東京研修では、美術館・博物館で名品を鑑賞し、感性を磨き知識の習得に努めてまいりました。六月、体育祭では、クラス単位で種目別の競技と応援を楽しみました。

六月の後援会総会に参加いただいたご父兄の方には、クラス担任との懇談、個別の面談を行いました。

大学生生活美術学科 2年

二年に無事進級し、専門科目が大幅に増えて徐々に自ら何を専門に勉強してゆくのか模索が始まった時期です。体育祭も終わりが近づいて夏休みに突入です。学生たちは学科内コンクールや、九月の美術鑑賞旅行を控え、それぞれ準備や計画を練っている頃かと思われまします。グループ展等にも出品する学生が増えました。学友会活動や、インカレ学生委員会、様々な学校行事のサポーターとして中心になりつつあります。ゼミ活動にも参加する学生が増え、大学構成員の中心として人数は少ないですが、調和の取れた学年でありますので頑張つてほしいと思います。

大学生生活美術学科 3年

生活美術学科三年生は、各人面談してそれぞれのコースを決めました。デザインコース十二名、アーツイストコース十二名、インストラクターコース七名、アートな職人コース七名でした。行く道が定まれば覚悟も決まります。最近の展覧会を挙げると、森教授の呼びかけで開

催された展覧会では、支給された支持体に密度と創意ある表現を行っていました。晩翠画廊のワインラベルコンペにも個性と創意あふれる楽しい作品を出品していました。また、コペなどに積極的に応募している学生もいます。今後の各自の進路に向けて、努力を積み重ねていくよう応援したいと思います。

大学生生活美術学科 4年

クラス内に就職試験最終面接を体験した学生がいることを知りました。企業の採用時期が「後ろ倒し」になった今期のこの時期に最終面接まで残れたことは評価に値します。健闘を讃えます。

個人戦のように思われがちな就職活動ですが、学生達には団体戦の二員であるという自覚を持って臨んでもらいたいと考えています。リーダー役の学生達には道を示してほしいと期待し、頑張るリーダー達を見て奮起する学生が日々増えることを願っています。成功も失敗も仲間と分かち合い、情報を共有し、皆で勝ちに行くつもりでいます。サポーターは保護者様です。ご声援、よろしくお願いいたします。

短大食物栄養学専攻 1年

入学から三ヶ月を迎えた食物栄養学専攻二年生は、オリエンテーションキャンプを皮切りに短大の授業における演習や実習でのグループ作業、そして体育祭を経て、クラス全体がお互いに打ち解けた雰囲気です。現在勉学に励んでいます。体育祭では、学生デザインオリジナルポロシャツを担任も含めて学生全員が着用しました。試合では、五人しかいない男子が女子と混合ながらもバレーボールで優勝を果たす等、クラスのみならず一層強まったように感じます。サークル活動にも積極的な学生たちですが、今は前期末試験を目前に控え、勉強により力が入っているようです。

短大食物栄養学専攻 2年

「二年間で栄養士免許を取得したい」という志で入学してから、一年目は授業をこなすことと生活のバランスをとることに精一杯の様子が見られました。しかし、二年生になって三ヶ月が過ぎた現在は、卒業後の自分のあり方を模索しながらの就職活動、免許取得のため

めに通らなければならない校外実習への取り組み、学んできたことを活用しての地域連携活動への参加など、クラス中でお互いを刺激しあいながら積極的に向き合っていることが伝わってきます。それぞれが描いている将来像が叶うようにと願いながら、支援していきたいと思つています。

短大子ども生活専攻 1年

桜が蕾の頃、保育士や幼稚園教諭になることを夢見て入学した二年生でした。春の歌をみんなで響かせた頃、桜は満開となつていました。夢に向かって一歩一歩努力して近づく実感と学園の自然と共に過ごす毎日が学生たちの心を豊かにしてくれています。六月の体育祭で、全力を尽くす選手や一生懸命仲間を応援する学生たちは、開会式から閉会式まで、自主的に作成したクラスTシャツを着て盛り上げました。附属ますみ幼稚園・保育園や児童福祉施設などの見学実習、事前・事後指導を通して、受動的な学びから、能動的に学ぶ姿勢の必要性を感じ始めた学生の気持ちを支え続けたいと思います。志の帆を高く掲げ、互いに声をかけながら育っていくことを心から望みます。

短大子ども生活専攻 2年

四月二十日、学友のあまりに突然の悲報に接し、クラス同は言葉の失いました。弔辞に代え全員で寄せ書きをしてお供えしました。悲しみも癒えないさなか、保育実習に向けて気持ちを奮い立たせようとしていた折、今度は諸般の事情により、実習を延期せざるを得なくなりました。担任は度重なる状況にクラスの皆の心が折れはしまいかと日夜大変心配いたしました。しかし、さすが若者です。連日の補講に耐え、梅雨の時期をも明るく乗り越え、体育祭では一致団結、円陣を組んで盛り上がり昨年に続き優秀な成績を収めました。八月以降、保育士の資格を取得するための実習に六週間、幼稚園教諭免許取得の教育実習に四週間を、あまり間をおかずに取り組むこととなりますので、保護者の皆様からも励ましをよろしくお願い申し上げます。全員しっかり資格を取得し、そろって卒業のゴールに向かってほしいと願っています。

大学家政学科 准教授

川俣 幸一

専門分野: スポーツ栄養学
主な担当科目: 応用栄養学、応用栄養学実習、栄養管理論



「あなたの専門は？」と聞かれれば、スポーツ栄養学であると私は回答しているが、国内におけるスポーツ栄養の歴史は非常に新しい。少しでもスポーツ栄養のトリアを述べさせていたいただきたい。

1984年のロサンゼルスオリンピックの際に、米国のカール・ルイスが栄養士を帯同させてグラウンドにやって来た事をきっかけに、日本でもスポーツ栄養の概念が知られるようになった。その5年後の1989年に、今でも米国でパイブル的な教科書となっているナンシー・クラーク氏によるスポーツ栄養ガイドブックが出版された(この日本語の翻訳書は1998年に発売された)。2001年には国立スポーツ科学センターに栄養サポートグループが誕生し、2009年には日本体育協会と日本栄養士会が共認定する公認スポーツ栄養士の1期生が誕生した。何を申し上げたいかと言うと、スポーツ栄養はまだ20-30年の新しい学問であり、その圧倒的な知名度の反面、整っているのは体制だけであり、学術的なエビデンスが全く足りないと言う事である。これは困ったもので米国で上手にいった事例も、日本人に当てはめようとするとうまくいなくなるケースも多い。

私のライフワークは、国内におけるスポーツ栄養のエビデンスを高める事である。これまでも、自転車ロード選手、高校運動部生、運動エリート高齢者などを対象に栄養サポートの成果を論文にしてきた。他にもスポーツ飲料やアスリート弁当、スポーツ栄養教育に関する論文も発表している。それらが評価されたのかは不明であるが、2012年より日本スポーツ栄養学会の委員を務めさせていただいている。責任を感じながら、後進の就職先の開拓には心を砕く日々である。

最後になるがスポーツ栄養は現場の栄養学であり、私の研究は現場の栄養士が読み物として学べるものでなくてはならないと考えている。学生には「現場のスポーツ栄養士が参考にしてくれるような卒業研究をしよう」と話しかけている所である。

大学家政学科 講師

伊澤 華子

専門分野: 栄養教育・食品学
主な担当科目: 栄養教育論、栄養指導論、学校栄養指導論、食生活論、食品学総論



現在、「栄養教育」を中心に講義を行っていますが、大学院で研究している内容は少し異なります。自身の研究を振り返りながら、現在研究していることについてお話ししたいと思います。

そもそも、大学院で「食品化学研究室」に所属したきっかけは、独立作成の際に「食物繊維がなかなか上がらない」という悩みを救ってくれた食材「キノコ」を研究しようと思ったことです。テーマは、キノコに含まれる血圧上昇を抑制する成分の研究でした。数種類の乾燥キノコの粉末から血圧上昇を抑制する反応は有るのか調べ、その反応が強いキノコについて、どんな物質が関係しているのか調べる研究をしていました。約5kgのキノコ粉末と70%アルコールを45Lのポリバケツにいれ、よく混ぜ、キノコから溶け出した液から最終的に(確か23mg)結晶を採取したときにはとても感動しました。そして、その物質があっさり既知物質「ニコチアミン」であったときの「な〜んだ」と拍子抜けした感じは今でも忘れられません。その後、植物性食品に含まれる「ニコチアミン」について、豆類や野菜などを中心に調べていました。

研究と並行して、他の短期大学で助手として実験のサポートや非常勤講師として応用栄養学や食品学の講義を行っていました。その時に、学生にどのように教えればいいのか悩み、コーチングの勉強を行いました。コーチングの質問を行いながら、対象者に考えてもらう、「答えは対象者の中にある」という考え方は、栄養教育論や特定健診・保健指導にも取り上げられ、勉強していたことが偶然つながった形になります。

現在は、栄養教育論で扱う「行動変容」について、研究を行っています。類似分野である行動経済学で取り上げられている「ナッジ」という考え方を実際に行えないか検討中です。どんなものかという「健康行動を意識的に取り組むのではなく、無意識に行動していたら、それが健康につながっていた」というものがあるのかどうか…。この取り組みから、将来的には「面白いと遊んでいたら、知識が身について、国家試験に合格していた」とかと思いますが、そこまでうまくいくのかは未知数です。

私の研究

短大生活文化学科 准教授

佐藤 恵

専門分野: 英文学
主な担当科目: 英語、英語I、英語II



みなさん、ジェーン・オースティン(1775-1817)という英国の小説家をご存じでしょうか。日本ではあまり馴染みがないという方が多いかもしれませんが、「Janeite(ジェーン・オースティンの讃美者)」という言葉もあるほど人気があり、シェークスピアにも比せられる作家です。少し前に彼女の代表作『プライドと偏見』が映画化され、日本でも広く上映されたことからご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

私は英文学を専攻し、主にこのオースティンの小説について研究してきました。彼女の作風は、不治の病や出自の秘密を背負った登場人物、奇想天外な筋の展開といったものではなく、日常生活の中に写実的に人間性を写し出し、ユーモアと風刺をたたえているのが特徴です。女性が何を行うにしても、現在よりも多くの制約があった当時の家父長社会において、いかに女性作家が物を書いているか、といった女性と社会の問題に焦点を当てて研究しています。また、明治の文豪・夏目漱石(1867-1916)は、元々英文学者であったことをご存じでしょうか。漱石はオースティンを「写実の泰斗」と賞賛し、彼女の小説を「則天去私」の作品であると高く評価していました。そこで私は英文学者と作家の二つの側面から漱石を考察し、オースティン作品との比較研究も行っております。

一般教養科目の一つとして英語を教える普通の授業の中では、このような文学に直接触れる機会はありませんが、英国の生活文化を扱った教材等を用いることで、英語の勉強と同時に異文化理解を深めて欲しいと思っています。

短大生活文化学科 講師

大瀬戸 美紀

専門分野: 社会福祉・障害児教育
主な担当科目: 社会福祉論、社会的養護内容、家庭援助論、相談援助、保育相談支援、乳児保育など



私の専門分野は「障害者福祉」で、中でも「障害者に対する差別・偏見の払拭」をテーマとして20年以上研究を続けています。「障害者処遇の問題」については、古くは『古事記』や『日本書紀』にもそのような記述が見られます。また、新しいところで、『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)』の制定(2016年4月施行予定)といった障害者差別を社会問題として払拭しようとする社会的動向に見られるように、このテーマは古くて新しい問題として「障害者福祉」の重要課題の一つとして位置付けられています。ここで私が着目しているのは、「優生学」という学問の存在です。「優生学」とは、簡単に説明すると「人類を遺伝学的によりよく改良しようとする学問」で、戦前において国際的に広く学ばれました。この考え方は、やがて「悪質な遺伝子を持つ者」を人工的に淘汰しようとする社会的な動きにつながっていき、1940(昭和15)年に「国民優生法」の制定となりました。この法の下に、「障害者」は「悪質遺伝者」として国家に断種されることとなったのです。その後、「国民優生法」は、「優生保護法」と改正され、1996(平成8)年まで日本で施行されてきました。その法の前文には「優生上の見地から不良な子孫の出生を防止する」と謳われていたのです。これは、1980年代の「障害者福祉」の理念でもある「ノーマライゼーション(障害のある人もない人も社会の中で平等に権利を守られながら生きていくことが普通の社会であるという考え方)とは対極にある思想であるといえます。このように「障害者に対する差別・偏見」は、国家及び国民の思想などに深く根ざした問題であり、どのように「きれいな」スローガンを掲げても、一人一人が「自分の中に差別的な意識はないのか」と常に自問自答するような高い意識を持つことなしに解決は難しいと考えています。

トリニティ大学の学生・教員が来学

本学は、合衆国コネチカット州にあるトリニティ大学と以前より交流を深めてきました。特に三二東日本大震災発生直後、トリニティ大学の学生さん、先生方から心温まるメッセージをいただき、学生たちも感謝の気持ちでいっぱいでした。

さて、五月下旬に、そのトリニティ大学の学生五名、教員二名が、日本における震災・過去と現在」というテーマのフィールドワークで来日し、その環として、本学を表敬訪問して下さいました。

当日は、河北新報記者の方の「震災後」と題する講演や学友会の有志十数名が参加してのウェルカムパーティーで歓談のひとときを持ちました。学生たちにとっては、有意義な交流であり、喜びもひとしおでした。



大学・短大後援会総会

六月六日(土)、午前十時から大学短大後援会の役員会が百周年記念棟会議室で開催されました。平成二十六年年度事業報告、決算、監査報告、本年度の事業計画案、予算案、役員人事案が、事務局提案のとおり承認されました。そして会場を百周年記念ホールに移して午前十一時から定例総会が開催されました。教職員を含む出席者数三七人、委任状三〇三通でした。議事前には、山田宗慶学長から本学の教育方針及び特色と学生たちの学習や諸活動についての説明を兼ねた挨拶がありました。総会においても事務局提案の議事は、原案通りに承認していただきました。総会の最後に、長年に渡り後援会の会計監査を務めていただきました相原進監事がこの総会をもって退任となり、会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

総会後、ホールで株式会社マイナビの「就職活動と保護者の支援」と題する講話があり、就活サイトの活用から就職活動の取



組み等について説明がありました。

午後二時から学科・専攻別懇談会に移り、その後担任との個別面談会を実施しました。学科・専攻別懇談会では、学習や実習の状況、学友会活動や学生生活の状況・卒業生の進路状況と今後の就職状況などについて先生方からの報告があり、学科によっては学年ごとの合同懇談会を行ったところもありました。個別面談会には、夫婦で出席した方や、県外から出席した方なども、有意義な情報交換が行われました。

体育祭

六月十三日(土)、好天の下、今年度最初の学友会恒例行事、体育祭が行われました。前日の雨で心配されたグラウンドコンディションもリレーが行われる午後にはすっかり回復し、プロگرامは滞りなく進行しました。

競技種目は室内競技がバレーボール、バスケットボール、玉入れ、屋外競技はリレーで、大学短大の専攻の対戦形式で行われました。球技では白熱した試合が続く中、選手達の普段の生活ではなかなか見られない勇姿に、ファンが急増したことは間違いないでしょう。最後は屋外で「ガチリレー」。文字通り専攻対抗本気モードのリレーが繰り広げられました。午後の眩しい日差しの中、全力疾走する選手達に熱い(黄色い?)声援がとび、体育祭の締めくくりを飾るクライマックスとなりました。

競技は終了予定時間内にすべて終了し、その後は後夜祭に突入。ここでも多いに盛り上がったのは言うまでもありません。すべてのイベントは午後七時過ぎに終了しました。日を通して大きな事故もなく有終の美を飾ることができたのは、実行委員の学生諸君の努力と教職員・参加学生の皆さんの協力の賜物というべきでしょう。みなさん、有難うございました。



各競技の優勝チーム

バレーボール男子：短大食物栄養学専攻二年
バレーボール女子：短大子ども生活専攻二年
バスケットボール男子：大学健康栄養学専攻二年
バスケットボール女子：短大食物栄養学専攻二年
玉入れ：大学服飾文化専攻四年
リレー：大学健康栄養学専攻二年
総合優勝：大学健康栄養学専攻二年

事務職員紹介



大学・短大学生課
高橋 絹枝

六月二日より高等学校事務室より異動して参りました高橋です。主な職務は奨学金や学研災・学研賠の保険の手続き、学友会の行事で体育祭や大学祭、またサークル活動、ファッションショー等の活動支援に関するものです。

窓口では、学生さんにわかりやすく、丁寧に説明するように心がけております。皆さんの学生生活を様々な角度からサポートし、より良いものにするために、日々勉強中です。趣味はキャンプと登山です。

人事異動

退職の教職員

大学・短大学長
秋葉 征夫
大学・短大入試課長
荒 伸二
大学・短大学生課長
黒川 利司 (平成27年4月30日)
大学事務補佐
大江 寿枝
法人(短大)会計課
伊藤 浩平 (平成27年2月28日)

新任の教職員

大学・短大学長
山田 宗慶
大学准教授
川俣 幸一
大学・短大学生課長
岡部 正利
大学・短大学生募集担当課長
小野寺 洋征
法人(短大)会計課
三浦 喜史 (平成27年5月1日)

異動

大学・短大入試課長 遠藤 保博 (大学・短大学生募集担当課長)
大学・短大学生課 高橋 絹枝 (高校事務) (平成27年6月1日)
大学・短大図書館 佐藤 千恵 (法人(短大)会計課) (平成27年6月1日)
高校事務 渡邊 真澄 (大学・短大図書館) (平成27年6月1日)
法人(短大)会計課 小林 裕人 (大学・短大学生課) (平成27年6月1日)

PHOTO ALBUM

(平成27年度前期)



入学式

桜の開花発表直後、晴天の下、大学・短大（編入生を含む）計199名の新入生をお迎えし、平成27年度入学式を挙行いたしました。新入生の皆さん、おめでとうございます。



ウェルカムパーティー

在学生たちが新入生に早く大学・短大に馴染んでもらおうと企画している毎年恒例のイベントです。「クイズ」、「ミニファッションショー」、「クラブ・サークル紹介」など盛りだくさん。



ワクワクぷろじえくと「福興しだるま絵付け」

生活美術学科が、長命館公園(泉区加茂)の「さくら祭り」において、桜の花びらが舞い散る中で、「福興しだるま絵付け」のワークショップを実施しました。



交通安全講話

本学は学生専用の駐車スペースがあります。この交通安全講話を受講し、任意保険加入を条件に、駐車許可登録をすれば、自動車やバイクの通学も可能です。



健康栄養学専攻・キャリア開発I

1年次の「キャリア開発I」。この授業は、先輩学生が学習支援員（サポート）として加わっています。教室を回っている先生や先輩学生たちが、後輩たちにわかりやすく丁寧に説明してくれます。



三島学園香風会奨学制度 在学生学業奨励金交付式

この奨学金は三島学園独自の奨学制度で、修学意欲が高く学業成績の優秀な在学生が大学・短大計4名が選出され、交付式を行いました。



構内清掃

快晴の下、恒例の「構内清掃」を学生と教職員で実施しました。皆さん、暑い中、ご協力ありがとうございました。



大庭清先生、名誉教授称号授与

大庭清法人事務局長は、東北生活文化大学名誉教授の称号を授与されました。大庭事務局長は、家政学科長、家政学部長、理事、評議員などの要職を歴任され、現在も引き続き学園運営において尽力されております。



ワクワクぷろじえくと「いず☆ちゅう祭」

「泉中央まつり(いず☆ちゅう祭)」の参加型ワークショップブースにおいて、今年も版画セミナーが「消しゴムはんこによるトートバッグづくり」を開設しました。

就職支援センターから

新規求人倍率は1.73倍(平成27年5月分)であり、このところの4年間は増加傾向にあります。ただし、企業収益を見るとそれほど伸びはなく、景気もそれほど上がる状況にはない様子であるとのことです。

さて、平成27年度卒業予定者の大学4年次生と短大2年次生から就職活動の開始時期が変更(後ろ倒し)になりました。就職までの主な流れは、3月から企業の広報活動が開始され、学生は業界・企業研究をして、エントリー(資料請求)し、エントリーシートを提出、8月からの選考試験、そして10月から内定が出されることとなります。

しかし、現在の状況を見ますとすでに求人・求職活動は始まっています。8月1日からの選考は守れられず、すでに企業によっては早くから面接等が始まっています。したがって内々定がここから始まっているとも云えます。学生にとっては、大学の講義と就職活動、7・8月からは公務員試験と民間企業の試験が同時期に実施されるなど、本当に多忙な状況が続きます。就職活動へのご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。

就職活動は、自己理解から始まります。自らの興味・関心、適性を知り、仕事・業界を選び、企業情報等を収集する。受験先を明確にした後、積極的に多くの企業等にチャレンジして内定を得ることとなります。就職支援センターはそのお手伝いをしています。積極的に本センターを活用してください。

TSB 東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結ぶ懸け橋となることを願って命名しました。

広報TSB 第7号

[発行] 平成27年(2015年) 8月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <http://www.mishima.ac.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb